

連合京都2013春季生活闘争勝利総決起集会

すべての労働者の処遇改善を追及し、
「働くことを軸とする安心社会」を実現しよう。

～賃上げ・労働条件の改善で、デフレからの早期脱却を！～
～第23回参議院議員選挙に勝利しよう！～

連合京都 2013 春季生活闘争勝利総決起集会アピール

われわれは、「2013春季生活闘争勝利総決起集会」を開催し、春季生活闘争のヤマ場に向けた揺るぎない決意と態勢固めを確認した。

賃金水準の低下や格差の拡大、歯止めのかからない長時間労働、雇用の非正規化など、「雇用と労働条件」は大きく傷んでしまった。これにより「社会の不安定化」が進み、すでに許容範囲を大きく超えている。連合は2013春季生活闘争において、危機を乗り越えるための原動力は「人」であり、組合員の意欲・活力を引き出すためにも「人への投資」が必要であると訴え、闘いを進めてきた。しかし、経営側は、雇用を守ることが最優先であると主張し、非常に厳しい姿勢で臨んでいる。

連合は、経営に対して、ミクロの企業の論理に埋没した人件費の削減一辺倒の姿勢を転換し、所得向上による内需拡大を図り、自立的な日本経済の成長に向けた対応を求める。「人」への投資はコストではなく、生産性向上と将来の成長の源泉である。組合員の厳しい生活の改善は急務であり、この間の経営に対する協力・努力に報いるためにも、最大限の誠意をもってわれわれの要求に応えるべきである。

一方、昨年末に発足した安倍政権は、「アベノミクス」の具体的な政策に関する議論を、経済財政諮問会議などでスタートさせた。成長戦略の柱とされる規制改革に関する論点を見れば、「柔軟で多様な働き方を進めるための規制改革」という美名のもと、労働者保護を大きく後退させる規制緩和策が、次々と組上に載せられようとしている。

かつて自公政権は、新自由主義・市場原理主義政策によって、雇用が不安定で低処遇な多数の非正規労働者、そして「ワーキング・プア」に象徴される格差社会を生み出した。そのことへの反省がまったく感じられない労働規制の緩和の動きには、断固反対していく。

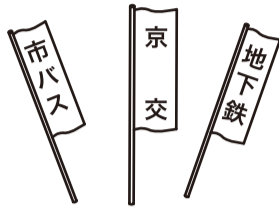
今こそ、雇用社会の主人公である働く者に温かく寄り添う政策を実行して、希望にあふれた「働くことを軸とする安心社会」を実現しなければならない。そのためにも、今夏に執行される第23回参議院議員選挙において、京都選挙区では池坊美佳氏、そして比例区の9人の組織内予定候補者、全員の勝利に向けて邁進する。

2013春季生活闘争は大詰めを迎える。連合に集うすべての労働者がその役割と責任を自覚し、あらゆる手段を尽くして納得できる答えを引き出す闘いを進めよう。

連合京都はここに、生活の維持改善に向け、一人ひとりの力を一つに結集し、未組織・パート労働者を含むすべての働く者のディーセント・ワークの実現に向け、最後まで闘い抜くことを宣言する。

2013年3月8日

連合京都2013 春季生活闘争勝利総決起集会



・・・京交部隊・・・



四条河原町交差点をデモ行進中



集会に参加した組合員

二〇一三年三月八日(金) 連合京都各産別の組合員二五〇〇名が集結するなか、「連合京都二〇一三春季生活闘争勝利総決起集会」が円山野外音楽堂で盛大に開催されました。京交からは

最大動員の組合員が参加し、都市交産別としての参加が最後とあって、組合旗を先頭に部会旗、支部旗、職と全て高らかに掲げ、京都市役所前まで京交の存在を大いにアピールしながら

デモ行進を盛り上げまし



集会アピール文を読み上げる 安田連合青年副委員長



京都交通労働組合

電話(075)841-0948

発行者 瀬戸高志

編集者 佐田 悟

- ・一面
- ・連合京都2013春季生活闘争勝利総決起集会
- ・都市交 関西地本 第36回公営交通研究集会
- ・二面
- ・都市交 関西地本 第36回公営交通研究集会
- ・都夢ちゃんのひとり言
- ・三・四面
- ・第7回都市交 関西地本 青年女性委員会定期大会&セミナー
- ・四
- ・エンパワメント活動報告
- ・Fromみぶ

都市交 関西地本 第36回 公営交通研究集会

自治労との産別統合を控え、都市交通の新たな創造と
新政权下での政治課題や公営交通のサーブスについて見識を深める

二〇一三年二月二十八日(木) 三月一日(金)の二日間、都市交関西地本第三十六回公営交通研究集会が



主催者挨拶を述べた 中山久雄(大阪) 地本執行委員長

福井県三國観光ホテルに於いて開催されました。関西地本山口教宣部長(伊丹)の開会の挨拶では「集まった集会は、関西地本で新たに選任された中山執行委員長(大阪)の挨拶へと続き、第一講座では、大阪市交通局長の藤本昌信氏から「公営交通のサーブスについて考える」、第二講座では元官房長官の平野博文氏から「地方自治の本旨とは」と題して、政権のまさに中枢を担ってきた実体験を踏まえた講演がありました。また、第三講座では「自治労との組織統合に伴う都市交産別の継承等の考え方について」、都市交中央執行委員長の高木敏雄氏より講義を受けました。二日間で三人の講師から貴重な知識を習得し、京交を代表して参加した教宣部長が質問に立つなど、今後の組合活動に役立つ有意義な研究会となりました。



司会を務めた 山口修一(伊丹) 地本教宣部長

：第三十六回関西地本公営交通研究会に参加して： 今回福井県で開催された、第三十六回公営交通研究会に初めて参加させて頂きました。公営交通を取り巻く現状が厳しい中、公営と民営の差、今後の公営交通など興味深い話をたくさん聞く事ができました。そ

の中でバスの話を例にあげます。「公営のドライバーの方が民営のドライバーより運転の技術が高い、しかし、クレームは公営の方が圧倒的に多い」というお話がありました。同じ事をしているにも、むしろ民営より高い水準で仕事をしているにもかかわらず、公務員だという事でクレームが多くなってしまう。市民から、また観光客から公営として必要とされるよう、これからのサーブスの向上や、良い仕事をしようとする意識が大切なのだと再認識させられました。今回の研修で経験させてもらった事を生かして、日々の仕事に邁進していこうと思えます。

「我々交通事業者はお客様に移動手段を提供するが、その移動時間を快適に過ごしてもらわなければならぬ。お客様が『何か』を我慢して乗っておられるようでは失格だ。」と述べられました。先ほどの「見た目」の話も含めて我々のサーブス水準もより高いレベルに引き上げられるのでは？と考えさせられた講座でした。



第2講座講師 元内閣官房長官 平野博文氏

今回「公営交通研究会」に大阪で交通局の民営化を進めている藤本大阪交通局長がお話をされると聞き「民営化担当の長がこの場で一体何を話すつもりなのか？」と興味津々で参加させて頂きました。藤本氏は「決して公営交通が不要な訳ではない。むしろ公営交通のハード水準の高さを活かせば民鉄事業者を越えられるだろう」とおっしゃいました。その例えとして「サーブス従事員の記憶に残っている部分は？」というアンケートの結果が「見た目五十%、声の質三十八%、話の内容七%」となったそうです。やはり第一印象というものはサーブス業において重要なファクターなのだ改めて認識させられました。それから

永山 篤史



第1講座講師 大阪市長 藤本昌信氏

第三十六回関西地方公営交通研究会が開催され、今後の公営交通を担う組合員が集い、意見交換や交流を行いました。第一講座では、大阪市交通局局長藤本昌信氏から「公営交通におけるサーブスについて」の内容で講座があり、「公営である意味は何か？」と問いかけられ、私なりに真剣に考えてはみたものの、確信的な答えを導き出せたのか？本当にこれでもいいのか？今後の課題としてしっかり考えて行きたいと思えます。第二講座では、元官房長官の平野博文氏より、内閣官房の中枢を担ってきた自身の体験談やエネルギー問題について、第三講座では、日本都市交通労働組合中央執行委員長の高木敏雄氏から、現在の都市交の現状と今後の展望や自治労との統合に向けての貴重な話など、幅広く充実した講義を拝聴しました。各講義の後は、各単



第3講座を務めた 佐田教宣部長

組から活発な意見や質問があった。

り、貴重な体験とともに自分自身にとつて明日からの仕事に役立つ充実した二日間でした。この経験を後輩諸君に伝えることも忘れずに取り組んでいきます。次回も是非参加したいと思えます。

福本 泰市

交研集会所も三回目の参加となりましたが、今回は講師として民営化問題に揺れる大阪市交通局の局長である藤本昌信氏を招いての講演というお話をお話を聞いてまいりました。まず藤本氏は、「交通は民営で」という理念をもっておられましたが、公営というものは、その性質上、職場よりも議会が優先されてしまう。その結果、現場に目が向かず内に向いてしまうので現場がよくならない。経営者の視点が民営とは違って、そもそも現場に目が向いていない。公営のほうがい



第3講座講師 高木敏雄 中央執行委員長

サービスの(ハード)の水準は高い(パリアフリー、エスカ、ノンステップバスなど)が、実際のサービス(ソフト)が悪い。業務技能は公営の方が高水準(離職率が低いなど)しかし、最後に声かけなどのサービスが悪い。なかなか手厳しい話ばかりで、正直私には内容が難しすぎました。しかし、いつ参加してもまじめに働かなくては、今の職場を守る事はできないという共通の内容だけは私にもわかりました。今後も、シンプルなお題目を職場に発信してまいりますので、皆さん宜しくお願いします。

今田 賢吾

今回で三回目の参加となりました。大阪市長選後に行われた前回の交研集会所は、大阪市交通局を巡る状況や給料カットについての説明がありました。その時は隣の職場で起こっている事に大変不安を感じていました。今回は、その大阪市の交通局局長藤本氏による講座が準備されました。公営企業の研究集会所で民営化推進の局長が何を話されるのか、非常に興味がありました。職員サービスの削減を進めていくことや、コスト削減を進めていくためには労働組合の協力が必要である。民営化すれば、議会承認がなく身動きが早くなり、経営の幅も広がる。その反面、公営は離職率が低く技術や知識のレベルが高い。と言う事が主な内容でした。京都では、他都市に先駆けて給料カットや民間委託を進めてきま

した。接遇にも早くから力を入れていきますし、コスト重視の民間ではなかなか行えないパリアフリー化への投資も積極的に行ってきた。東京や大阪のような大都市では民営化によるメリットもあるかもしれないが、京都においては経営の多角化が求められている。線が切捨てられるデメリットの方が大きいと考えられます。公営だからこそ質の高い「安心・安全・快適」を提供できる、今まで以上に頑張っていきたいと思えます。



... 参加した教宣部一同 ...

堂下 直也

今回の公営交通研究会は、都市交のもとで行う最後の機会となりました。第一講座から第三講座のどの講座に關しても、将来の公営交通を考えるうえで非常に有意義なものでした。そもそも、労働組合には勤務条件や賃金等、労働者の権利を保護するという大事な役割があります。しかし、世間の状況等勘案すると、現在の労働組合はそれにプラスして、組合員の話の吸い上げることにより、会社をどう発展させていくのかということも含めて考えていかないと、会社が衰退する方向に行きかねません。したがって、労働組合の果たす役割は、これからますます大きくなると考えられますので、それを踏まえて活動を進めていかなければならないと感じました。

山野 順大

今回、初めて公営交通研究会に参加させて頂きました。その中で、大阪市交通局局長藤本氏から「公営交通におけるサービス」について講義がありました。今の公営交通のサービスの水準は高く、ハード面の設備等もパリアフリーの推進、ノンステップバスの導入率の高さ等、民間事業者よりも遙かに進んでおり公営交通ドライバーの運転レベルも高くなっている。その反面、ソフト面の接遇等は民間に比べてまだまだ伴っていないのが現状で、言葉づかいや見た目の改善が急務だとおっしゃっていました。講義の中で、京都の市バスはレベル

が上がっていると、お褒めの言葉も頂きましたが安心はしていません。やはり今後、公営交通として存続していくためには、ソフト面のレベルをより一層底上げしていかねばいけません。民間事業者のレベルを上回る気持ちを持って進んで行かないといけないと改めて考えさせられました。常に危機感を持ち、安全運行、サービス向上に徹底し、市民の皆様から必要とされる公営交通となるように努力していきたいと思えます。

江谷 孝行

今回、第一講座では大阪市交通局管理者の藤本昌信氏のお話を聞くことが出来ました。何かと話題な維新の会代表である橋下市長が招へいた民間出身の管理者ということで大変興味を持って臨みました。講義が始まり早速、驚いたのは「労働組合が機能していない」と企業は駄目です。の言葉でした。橋下市長から任命された方なので労働組合に対して否定的かと思いましたが、そうではなく、経営者の立場で増員増客に向けて労使の交渉は絶対に必要であり、経営上でも賃金交渉は必ず必要と述べられました。また「公」「民」の違いや長所、短所を両方の視点から鋭く分析されましたし、言葉遣いや発音、音程等を含めた「徹底教育」、また、身だしなみによる印象の大切さを述べられました。私がこの講義で最も印象深かったのは、藤本氏が大学生の頃、漠然と就職を決めた京阪電鉄入社が決まった当時のことを語られている時でした。京阪の駅を通りかかった時、駅員さんが蛍光灯に付いた蜘蛛の巣をほうきで落とすところ、その光景を見て「この会社で良かった」と思われたそうです。自分達の職場を与えられた仕事以外で美しくしてあげたい。このように意識は、どの職場においても必要であり、意欲は、どの職場においても必要であり、政治の世界に入ったお話を官房長官時代のエピソード。沖繩基地問題、オスプレイ配置、北朝鮮、特

に気を付けた鳩山当時総理の発言、行動等、様々な活動に裏話を含めての話がありました。中でも印象に残ったのは「情報収集の大切さ」という言葉でした。大小様々なネタを拾い集めるという情報収集力がなければ発言や行動もできないと述べられていましたので、私も常にアンテナを張り巡らせて、情報収集を徹底したいと思えました。第三講座では、自治労合併後も都市交運動を自治体と連携させ根付かせる事や、民主党、連合と共に取り組んできた「脱・原発運動」を唱え続ける必要性について、都市交高木中央執行委員長から講義いただきました。その他、公務員の給料カットの論議についても話され、地方公務員は各自治体以前から努力し改善を行っており、交付税の削減等を担保に取った手法には断固として厳しい態度で臨む。決して予断は許さないが、ラスパイレスに対する疑問等も都市交としても訴えて行くこと述べられました。また、裏話として政府の要人が外国を訪問する際、どれだけ重要視されているか会談前後の食事時間等の対応を見れば分かるかと教えて下さいました。前日から招待されたいれば時間が沢山あるとみなし良い対応。しかし、会談だけで終わるといふのは公の場しか用意されず、密談は無く、会談としては失敗かもしれないとお話されました。会談以外でどれだけ密接に話す時間を作ってもらえるかで成功か失敗かが決まるようです。皆さんも参考にしてみてください。最後に、今回の講座で学んだことを今後の行動に生かして行きたいと思えます。

梅田 涼



～講義を受ける様子～

第三講座 山野氏 都市交と自治労の合併について京交の組合員にどのような影響がありますか？



質問に立つ 山野順大教宣部員

A 高木中央執行委員長 基本的に運動内容は変わりませんが、機関紙等情報発信の方法は変わります。今までは都市交目線に立って発信内容等を作り変え、分かりやすくしていましたが、そのような事はなくなりました。都市交の運動情報も自治労機関紙で産別運動として確認して頂く事になります。その他、加盟会費も違い4年間に分けて段階的に増えます。徴収方法や金額については各自治労本部に任せています。運動の周知については、各都道府県本部から指示がおりてくる点が都市交と違うところですが大きな影響は無いと考えています。

第二講座 堂下氏 長い政治活動人生の中で、たくさん寄せられる意見や要望をどのように選別し応えて行かれたのですか？



質問に立つ 堂下直也教宣部員

A 平野氏 政治は情報の塊です。交流、心情等色々ありますが対比軸は何か精査することが大切です。特に、「しっかりフォロワーしてくれる人」や「行動してくれる人」の見極めが大切です。



都夢ちゃんのひとり言

NYで注目の升

おしゃれ雑貨で人気に 英国発祥の高級服飾ブランド「ポール・スミス」の米国ニューヨークの店で、岐阜県大垣市の地場産品「升(ます)」が注目されている。日本ではおなじみの計量器だが、かの地では置物や小物入れの「おしゃれ雑貨」として人気上昇中。国内需要が頭打ち傾向だけに、メーカーも思わぬ需要に驚いている。大垣市には升メーカーが五社ある。東濃地方や長野県木曾地方などのヒノキを材料に、昔ながらの「ほぞ組み」で年間約二五〇万個を生産、全国シェアは八割にもなる。計量カップに押されているが、二升(二・八リットル)や一合(一八〇cc)の升は台所でおなじみだ。五社のうち「大橋量器」が昨年、「ニューヨーク国際ギフトフェア」に出展。ポール・スミスから、赤、黄、緑などシャープなデザインで塗った八勺(しゃく、〇・八合) 升四十個と、直方体のひよる長いとっくりと杯の八セットを受注した。



たちが学んできたものを後輩たちに伝えていけるよう、一層の努力を続けていこうと思います。ありがとうございました。

幹事 藤井 美由紀

二月三日(五日)に高槻に於いて都市交

関西地本青年女性委員会第九回定期大会

とセミナーが開催され、参加させて頂き

ました。二日目にタチソ(高槻地下倉庫)

の見学に行きました。そこは、一九四四

年九月に『お国のため』という言葉には

逆らえず、地主二十五人から土地を坪当

たり三銭で強制収用され、その年の十月

に鉄道総局岐阜地方施設部と間(はざま)

組の手によって工事が始まりました。工

事には陸軍部隊や学徒動員された男女学

生や、各村々から義勇隊として集められ

た農民、地元の小学生も携わったよう

です。しかし、ダイナマイトによる掘削や、

苛酷で危険なトンネル掘削作業は、三五

〇〇人ほどの朝鮮人で、中には新婚三日

目に強制連行で日本に連れて来られた人

もいたようです。一九四五年に入ると米

軍から兵庫県明石の川崎航空機工場が空

襲を受け、航空機工場の地下移設が急が

れるようになり、タチソも戦闘機『飛燕』

のエンジン部分を製造する地下工場へと

目的が変更されました。第一トンネル群

には完成したトンネル六本の中に四十台

の旋盤の機械と発電機が備え付けられて

いて、八月二十日に操業開始が予定され

ていたといえます。しかし、八月十五日

に日本が敗戦を發表し、トンネルは完成

間近で中止になりました。強制労働させ

られていた朝鮮人は、敗戦の知らせを聞

き跳びはねて喜んだみたいです。そして、

使われずに現在まで残されているよう

です。戦争の最先端で戦う人以外にも、こ

うした所で汗水流している人が大勢いる

ことを改めて感じる事が出来ました。そ

して、現在では拉致問題の件があります

が、戦時中は我が国でも同じ事をしてい

たという事実は決して忘れてはならない

と思いますし、同じ事を二度と繰り返し

てはならないと強く思いました。昼から

は高槻市交通局の方が老人ホームや障害

者施設に向き、バスの乗り方や、それ

を守らなかつたら車内事故で、お客様が

しんどい思いをするなどの出前講演をし

て、車内事故0(ゼロ)を目指す取り組み

について話を頂きました。今回も勉強

になる事がたくさんあり、良い経験をさ

せて頂きました。また、参加出来る機会

があれば、積極的に参加したいです。あ

りがとうございました。

幹事 中島 優太郎

この度、青年女性委員会第九回定期大

会に参加させて頂きました。一日目は、

総会、二日目は、高槻地下倉庫(タチソ)

見学と、高槻市営バス芝生営業所を見学

させて頂きました。芝生営業所の取り組

みである、ご高齢の方への、『出前講座』

について、説明頂きました。お年寄りの

施設などに向き、安全なバスの乗り降

りや、乗車中未然に車内事故を防止す

るため、お願いに向かわれる取り組みで

結果として車内事故の減少にもなり、私

も一運転士として、このような取り組み

は、今いちばん大事な事ではないかと思

いました。運転士として、安全運転はも

ちろんの事ではありますが、ご乗車頂

くご高齢の方へ、当方からお願いなども

大切な事ではないかと思しました。まず

は自分からと言う姿勢より、車内マイク

などを用いて、未然に防ぐ乗務をより一

層高めて行きたいと思します。三日間参

加させて頂き、ありがとうございました。

青年女性委員 小林 淳

二月三・四・五日の三日間の日程で行

われ、一日目は茨木市福祉文化会館にて

第九回定期大会、内容は二〇一二年活

動経過報告や二〇一三年度活動方針につ

いて行われました。また、二日目に見学

予定の高槻地下倉庫についての事前学習

会がありました。二日目は朝から高槻地

下倉庫の見学がありました。高槻地下倉

庫とは、アジア太平洋戦争末期一九四四

年から一九四五年に掘られたトンネル

で、その数は三十数本あるとのこととし

た。当初は陸軍の貯蔵庫として作られ、

その後、戦闘機のエンジン部分を製造す

る川崎航空機工場として使用される事が

決定されていたけど、完工する前に敗戦

を迎え使用されることなく、今でも崩落

箇所はあるものの保存されている。この

トンネルは、ダイナマイトやつるはし等

による掘削で、危険な作業には三五〇〇

人とも言われている朝鮮人の手によって

掘られたとのことでした。見学当日は少

し雨が降っていて、おまけに足場も悪く

崩落している箇所もあり、かろうじて通

大会宣言

私たち都市交関西地本青年女性委員会は、昨年の定期大会で決定した活動方針に基づき、公営交通の維持・発展に向けて、さまざまな活動を行ってきた。

日本の政治に目を向けると、昨年8月に社会保障と税の一体改革関連法が民主党・自民党・公明党の3党合意により衆参両院で可決成立し野田政権は衆議院を解散。それを受けて昨年12月に行われた第46回衆議院議員総選挙では、政権運営への大変厳しい評価を受けた形で民主党は大きく議席を減らし、自民党や第三極勢力の政党が大きく躍進した結果、安倍晋三自民党総裁を内閣総理大臣とする政権が発足した。大胆な金融政策、機動的な財政対策、投資を喚起する成長戦略の3つの矢が柱の脱デフレ政策「アベノミクス」を推し進めようとしている。今、市場では政策への期待から好調を維持しているものの、この政策は一步間違えると、雇用・労働の規制緩和など雇用の分野で一気に悪化することも懸念されるため、今後の動向に注視していかなければならない。

都市交通に目を向けると、公営交通は依然として厳しい事業環境にある。大都市、地方都市を問わず、利用者の少ない路線の廃止など、市民・お客さまへのサービス低下の波にさらされている。まさに「財政健全化」のスケープゴートにしようとする動きが強まってきており、先の見えない不安な状況が続いている。しかし、一方では、少子・高齢化の急速な進行や環境問題が深刻化するなど、福祉や行政の役を担う公共交通の必要性が高まっている中で、公営交通が担わなければならない使命・役割もこれまで以上に重要なものとなっている。私たちに課せられた課題はとて大きいものとなっている。

本年6月には自治労との組織統合を控えている。これまで諸先輩が築きあげてきた強固な組織力や団結力、また都市交運動のアイデンティティを継承し、これまでの運動にとどまることなく、統合によるスケールメリットを十分引き出し、交通政策課題の大幅な前進や組織・運動領域の拡大を図るなど、運動をダイナミックに展開させていくことが重要である。

私たちはこうした情勢のもとで、自分たちが置かれている立場を正確に理解し、こういう時だからこそ、元気、創造力、行動力を出して「自分たちの職場は自分たちで守る」ことをめざし、原点に立ち返るなど意識を変え、市民・お客さまから愛される職員にならなければならない。

本日、決定された活動方針をもとに、一人ひとりの力を合わせ、学び、交流し、明日へ向かって前進するため、全力を尽くすことをここに宣言する。

2013年2月3日
日本都市交通労働組合
関西地方本部 青年女性委員会
第9回定期大会

による掘削で、危険な作業には三五〇〇人とも言われている朝鮮人の手によって掘られたとのことでした。見学当日は少し雨が降っていて、おまけに足場も悪く崩落している箇所もあり、かろうじて通れるトンネルなども通らせてもらい、いっつ崩れてくるかもわからない状況で、奥に入っていくほど真つ暗で恐怖を感じました。当時の掘削作業がいかに危険で大変なものだったかを感じることが出来、いい経験になりました。その後、高槻市営バス芝生(しほう)営業所にて高槻市交通労働組合書記長・安藤鉄夫氏から高槻市営バスのこれまでの歩みと現状について講演して頂きました。次に高齢者向け出前講座を高槻市交通運輸課主査・中路昇氏がパワーポイントを使って実際の車内事故の実例など、なぜ起こったのか詳しく教えて頂き、とてもわかりやすかったです。三日目は各単組報告会で主に大阪市交通局の現状についてでした。改めてこの都市も厳しい状況という事、今まで以上に頑張らなければならぬと士気が高まりました。この三日間でとても勉強になる良い経験になりました。

青年女性委員 杉原 靖明

エンパワメント活動報告

自整支部



桃山東小学校へ贈呈

の出来栄えに自画自賛していますが、まだまだたくさんのご要望がありますので、コツコツと継続して作製していきたいと思ひます。

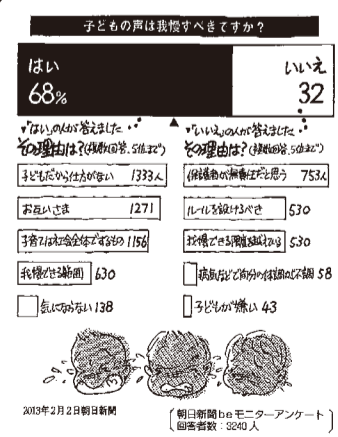


藤城小学校へ贈呈

毎回大変好評いただいています。特製「多目的箱」。今回も、業務終了後や休憩時間などの限られた時間の中でオイルやグリスの使用済みペーパー缶を洗浄・塗装し、学校生活に有効活用していただく趣旨でお渡ししました。この度は「藤城・桃山東」の小学校二校に届けてきました。当日は昼休みの貴重な時間でしたが、校長先生や教頭先生が対応してくださり、身に余る感謝の言葉を頂きました。作製するごとに完成度も上がり、なかなかの出来栄えに自画自賛していますが、まだまだたくさんのご要望がありますので、コツコツと継続して作製していきたいと思ひます。

Fromみぶ

公共の場は共存の場
寛容な心で子どもたちを見守ろう
電車やレストラン、劇場といった公共の場所で聞こえる子どもの泣き声や騒ぎ声について、アンケートでは約七割が我慢するべきと答えた。だが、泣く子のせいでバスを降ろされた、機内で子どもが泣きやまず降りるときに乗客から罵声を浴びたといったひどい事例も多々ある。確かにモラルの低い親もいるようだが、公共の場はさまざまな人が共存する場所でもある。互いに気遣う気持ちを忘れず寛容な心を保ちたい。



2013年2月2日朝日新聞 (朝日新聞のモニターアンケート) 回答数: 320人